

(様式5)

# 調査報告書

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<b>30</b>

訪問調査日	平成20年 6月 5日
調査実施の時間	開始 10時 30分 ~ 終了 15時 00分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 西南 ( 鹿児島県 )
-------------------	------------------------

評価調査員の氏名	氏名 <u>中村 朋美</u>
	氏名 <u>浜田 千里</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者・計画作成担当者</u>
	氏名 <u>石走博文・持増祐二</u> ヒアリングを行った職員数 3名

<p><b>※記入方法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。</li> <li>●「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。</li> </ul> <p><b>※項目番号について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●外部評価項目は30項目です。</li> <li>○「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。</li> <li>○「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。</li> </ul> <p><b>※用語について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)</li> <li>●運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。</li> <li>●職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。</li> <li>●チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。</li> </ul> <p>関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。</p>
--

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 6月 8日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定第4690300068号		
法人名	株式会社 セカンドライフ		
事業所名	グループホーム西南		
所在地	鹿児島県鹿屋市池園町2297-7 (電話) 0994-34-1008		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年6月5日	評価確定日	平成20年7月9日

## 【情報提供票より】(20年4月30日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤8人, 非常勤1人, 常勤換算8.5人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500円	その他の経費(月額)	7,500円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要(4月30日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	1名	要介護2	1名
要介護3	3名	要介護4	2名
要介護5	1名	要支援2	1名
年齢	平均 87.7歳	最低 79歳	最高 95歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大隅鹿屋病院・長崎内科・原園歯科・吉留整形外科
---------	-------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して一年経っていないホームであるが、「ホームは家庭であり、職員と入居者は家族である」という意識を持ち、その人らしく暮らせる支援の実践に取り組んでいる。入居者と職員は明るく和やかで、入居者の生活の質の向上には、職員の質の向上が不可欠であるという考えから、職員の育成や働きやすい環境の充実、職員配置などの工夫がみられる。課題点の把握や具体的目標を立て地域に認められるホームを目指しており、今後、更なる充実が期待できるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義や一項目ずつの内容を職員会議などを利用して職員への周知を図っている。自己評価は、職員の意見をまとめたものである。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、ホームの現状や取り組み、待機者について報告をし、緊急時の協力などの協議が行なわれている。地域密着型サービスとしての意見を引き出す工夫や、意見を反映させる取り組みまでには至っていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	普段から何でも言ってもらえるような関係作りに努め、年2回の家族会、運営推進会議、介護計画作成時の面談、家族の来訪時など意見を表せる機会をつくり、出された意見は、できる限り運営に反映させるよう取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	駐在所や消防署に対して、運営推進会議などでも災害時の地域の協力をお願いしている。町内会に加入し、地域の保育園、小中学校などにホームの広報活動を行い、積極的に地域での基盤づくりに取り組んでいる。

## 2. 評価結果（詳細）

主任調査員 中村 朋美 / 調査員 浜田 千里

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者、家族、職員と、地域と共に、入居者一人ひとりが本人らしく楽しく暮らしていくことを目指した理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関、台所、ホールなどに理念を掲示し、また、職員採用時、毎朝の朝礼、職員会議などを利用して、職員に理念の周知を図り、日々理念の実践に向けて取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。また、地域の保育園、小・中学校などにホームの啓発、広報活動を行い積極的に地域での基盤づくりに取り組んでいる。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や一項目ずつの内容を職員会議などを利用して職員に周知を図っている。自己評価は、職員の意見をもとにまとめている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ホームの現状や待機者についてなどの取り組みを報告し、緊急時の協力などの協議をしている。具体的な課題などを協議して意見をサービスの向上に活かすまでには至っていない。	○	今後は更に、地域の中で暮らし続けることの理解や課題など具体的に話し合い、参加者の意見を引き出し、そこでの意見を活かす取り組みが期待される。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム開設前から、市の担当者とは随時、相談連携を図っており、運営推進会議でホームの現況や報告なども行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりは毎月ホーム便りを送付し定期的に報告している。また、家族の来訪時や電話などでも、近況や健康状態などを報告している。金銭預かりは基本的にはしていないが、状況に応じて少額を預かり出納帳にて管理し報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から何でも言ってもらえるような関係作りに努め、年2回の家族会、運営推進会議、介護計画作成時の面談、家族の来訪時など意見を表せる機会をつくり、出された意見などは、できる限り反映させるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、馴染みの関係の重要性から、離職を最小限に抑えるために、職員が働きやすい環境づくりの工夫や努力をしている。代わる場合は、職員相互の連携を図りながら入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月テーマ（認知症についてなど）を決め内部研修を行なっている。外部研修は、他のグループホームでの研修や資格に伴う研修などに参加し、研修資料を活かし、内部研修にて職員間の共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームでの職員研修、グループホーム協議会の研修や懇親会の参加、また、同業者と気軽に連携を図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族との入居前の面談やホームの見学などを通して徐々に本人に慣れてもらい、家族と職員と連携を図りながら、安心して入居できるように取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と入居者は家族であるという意識をもち、入居者は園芸や調理、掃除などを発揮し、また、職員はそれらを学びながら、互いに感謝し、支えあう関係を築けるよう取り組んでいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中から、思いや意向を聞きだし、言葉にできない思いを感じることに努め、家族とも相談連携を図りながら入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族（来訪時の面談、電話などで確認）の意向や要望を踏まえ、職員で検討しそれぞれの意見を反映させた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々入居者の状況の把握に努め、毎月モニタリングを行っている。介護計画は、基本的に4ヶ月毎に見直し、状況に応じた随時見直しもされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望する場所や馴染みの場所などへの外出支援や通院支援など本人、家族の意向や状況に応じて柔軟な支援をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医で、継続的な受診を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けては、できるだけ最後まで支援していく方針であるが、具体的な方針や対応指針などは今後の課題となっている。	○	職員、医療機関などと十分に検討し事業所が対応しうる支援や対応方針を定め、入居者、家族、医療機関などと協議し、全員で方針を共有していく取り組みが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーに配慮した言葉づかい、対応など職員会議などで繰り返し話し合い、職員の意識向上を図っており、実践されている。個人情報の取り扱いについても留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、できるだけ本人のペースや意向に応じて柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意向や状況に応じて、調理や配膳など入居者と職員で行っており、そば打ちや餅つき、漬物づくりなど入居者の得意とする部分を引き出す支援もされている。入居者と職員は共に和やかに食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の意向や状況に応じて、毎日入浴ができる体制をつくっている。一人ひとりがゆっくり入浴できるよう配慮し、入浴が億劫な入居者には声かけなど工夫している。状況に応じて清拭や足浴などの支援もしている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干しやたたみ、調理、園芸、そば打ちなど生活力を活かした役割をもっている。散歩や買い物、ドライブ、かるたとり、うた、風船パレードなどのレクリエーションなど楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの入居者の状況や意向に応じて、日常的に散歩やドライブ、日光浴、外出などができるよう支援している。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、入居者の所在を確認しながら日中は鍵をかけないケアの実践をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火避難訓練で消防署立会いのもとに実施している。地域の駐在所や運営推進会議にて災害時の地域の協力をお願いしている。停電など考慮した設備や備品などが準備されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮しながら献立し、食事量、水分摂取量は大まかに把握がされている。特に水分についてはこまめに声かけをし、水分量の確保に努めている。おにぎりやとろみなど入居者の意向や状況に応じた支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や光はない。季節感ある花や装飾品があり、ゆったりとした空間である。ソファやテーブルの配置が工夫され、入居者はそれぞれに居心地よく過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも馴染みの品の持込をお願いして、居室には、テレビや冷蔵庫、本、時計、家族の写真などが持ち込まれている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。